

## 静岡医療科学専門学校臨床検査学科

鈴木 真紀子\*

### はじめに

静岡医療科学専門学校において20周年を迎える本年度4月より、静岡県では唯一となる臨床検査学科が開設されました。まだ卒業生が出ていない新しい学科ですが、主に本学科の目指す教育を、今回この誌面をお借りしてご紹介させていただきます。

### I. 大学の沿革と概要

「必要は発明の母」という諺がありますが、静岡医療科学専門学校の開学は、その諺通り必要から生まれたある種の発明と言えると、創設者である白井 溢 学園長の言葉があります。

人口高齢化の波が強く寄せるにしたがって、理学療法士、作業療法士の需要が著しく増したのにもかかわらず、人口300万人の静岡県に療法士を養成する学校がありませんでした。静岡医療科学専門学校は、急増する医療需要に対応するために1996年に開学し、理学療法学科、作業療法学科の2課程を、静岡県内で初めて設置しました。次いで、1999年に臨床工学科を開設しました。医療機器の多様化や高度化に伴い、操作・保守管理の専門職が医療施設では必須になったことから臨床工学技士養成のニーズが高まった時でした。2006年に看護学科、2010年には助産学科を増設し、以来20年、地域の保健・医療・福祉に貢献できる有能な人材を育成することで、保健医療福祉に関する総合専門学校として、地域社会への貢献を果たし

てきました。現在入学定員225名、この20年間に2,000名輩出した卒業生の内、1,400名は静岡県内で活躍しており、静岡県にとって重要な保健医学のスペシャリスト養成校として貢献しています。そして、開学20周年を迎える本年度、医学検査機器発展と、専門性の細分化により、臨床検査技師の需要が高まることを見込み、静岡県初の臨床検査学科を新設しました。

### II. 本学の教育目標

The education is firingという言葉があります。「教育とは心に火をつけることである」と訳します。本学の建学の精神はこれです。学問、真理の探究に情熱を注ぐ心、医療、福祉に奉仕する心、創造発展に向けての不屈の努力をする心、医療を志す真摯な学生にはそのような心があると思います。私たち教員はその心に火をつけ、そして、その火が学園の教室および関連病院、福祉施設などの実習の場から燎原の火のように燃え盛り、育ち、日本の医療、福祉の場を照らし支える立派な人材が輩出する学園でありたいと願っています。

### III. 臨床検査学科の特徴と教育内容

臨床検査学科は、本年度4月に新設され、現在1年生(I期生)25名が在籍しています。I期生が先頭に立ち、これから歴史を創り上げていくこととなります。新設ですが本校は20周年を迎え、今までに地域医療に貢献する人材を数多く輩出して

\*臨床検査学科 suzukim@shiz-med-sci.ac.jp

きた歴史があります。これまでの本校が積み重ねてきた功績に続くよう、臨床検査学科も地域医療に貢献し、チーム医療において活躍できる臨床検査技師の育成を目指しています。

本学科の特徴は大きく2つあり、「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上」と「臨床検査技師を目指すモチベーション向上」に力を注いでいることです。

「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力」は、チーム医療を担う一員として必須の能力であると考えています。1年次にコミュニケーション学に精通した外部講師より、基礎から学ぶことができます。交流分析アセスメントで自分自身を理解することから始め、シミュレーションで実践しながら身に付けていきます。また、専門基礎科目などの授業においても、プレゼンテーション形式、ディスカッション形式での授業を多く展開するよう努めています。1年次では、免疫学でI型アレルギーについて、グループに分かれて、スライド作成から始め、プレゼンテーションを行いました。情報科学演習では、様々なデータを提示し、そのデータから得られる情報をスライドにまとめ、プレゼンテーション会では、司会、タイムキーパーを決め、本格的に実施しました。データのまとめ方と併せて、プレゼンテーション技術の向上を図りました。血液学や、生理機能検査学においても、フォトサーベイや、心電図データの判読にて、グループディスカッションを行い、チームで協力する力を伸ばすことを目指しています。

さらに、本学は本学科を併せて6学科を有しており、チーム医療を学べる学校であることが特色です。他学科との合同授業(写真1)を設定しており、普段は関わることのない学生とディスカッションを行うことで、学科内で行う以上の高い効果が得られています。

「臨床検査技師になるモチベーション向上」を図る手段としては、まず、早期臨床体験があります。座学が多い1年次に、近隣病院の検査部を見学(写真2)することで、自らが目指す臨床検査技師の姿を見ることで、将来像を明確にし、学ぶ意欲の向上に繋がります。実際に、I期生全員が見学後、勉強に対するモチベーションが上がったとアンケート調査に回答しています。

また、もう一つ的手段として、臨床衛生検査技師会のイベントなどに積極的に参加しています。技師会の活動を知る、臨床検査技師として既に働いている先生方と交流を持つことが、モチベーションの向上に繋がっています。昨年は、中部支部医学検査学会が静岡市で開催されました。学会を経験することには大きな意義があると考え、全員が出席しました。学会参加後のアンケート調査において、全員が参加して良かったと回答しており、将来の夢が膨らんだ、勉強を頑張ろうと思ったと回答している学生も多く、モチベーションの向上に繋がったことを実感しました。さらに、医療の学校 2015(メデイメッセージ)が浜松市で開催され(写真3)、技師会を通じて全員が参加させて頂きました。医療職種、私たちにおいては臨床検査



写真1 助産学科との合同授業



写真2 近隣病院検査部見学



写真3 医療の学校 2015 メディメッセージ参加

技師の仕事を一般の人にも知って頂くという趣旨のイベントで、本学科の学生は、一般の方々への臨床検査技師の仕事紹介、がん検診を勧めるピラ配りや、イベントの中でのスタンプラリーの仕事をさせて頂きました。また、その他のイベントで、有志で参加させて頂く機会があり、全員参加のイベント経験から得られたものが大きかったと、休日開催のイベントであっても多くの学生が自ら志願してくれます。学生からは、臨床検査技師の方々と同じ空間にいられることがとても光栄で、その姿に憧れと尊敬を抱くとともに、自分の目指すものを改めて実感したという意見を聞くことができ、一緒に参加した臨床検査技師の方々からも教えて頂けることも多く、貴重な体験をさせることができたと感じております。モチベーションの向上のみならず、一般の方々を含め、イベントで接する

方々とのコミュニケーションの中で、接遇についても学ぶことができました。学生へのアンケート調査では、同様に全員が参加して良かったと回答しています。また、参加学生の96%が来年も参加したいと回答しており、臨床検査技師を目指す気持ちが高まっていることが窺われました。

#### おわりに

本学科は、現在I期生が1年生です。教員一同、試行錯誤ではありますが、臨床検査技師になりたいと強く願う学生のために、国家試験全員合格を目指し、尽力する所存です。また、本学科の特色である、臨床現場で必須な能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付けた、モチベーションの高い臨床検査技師を社会に送り出すために、努力して参ります。